

日本線虫学会ニュース

Japan Nematology News

目次

◆2014 年度日本線虫学会大会（第 22 回大会）のお知らせ（大会事務局）・・・ 1

◆日韓合同線虫学シンポジウムについて（岩堀英晶）・・・ 5

◆記事

 第 10 回ロシア線虫学会国際シンポジウム参加記（小坂 肇）・・・ 6

 第 9 回九州線虫懇談会を終えての雑感（吉賀豊司）・・・ 8

2014 年度日本線虫学会大会（第 22 回大会）のお知らせ

大会事務局

2014 年度日本線虫学会第 22 回大会を、下記のとおり、茨城県つくば市で開催します。多数の皆様のご参加をお願いいたします。第 22 回大会ではシンポジウムやエクスカッションは実施いたしません。大会に引き続き「日韓合同線虫学シンポジウム（第 2 回）」が開催されます。こちらへの参加もよろしくお願いいたします。「日韓合同線虫学シンポジウム（第 2 回）」につきましては、日韓合同線虫学シンポジウム（第 2 回）事務局が別に組織され、詳細はそちらから報告されます。

1. 開催日

2014 年 9 月 16 日（火）～18 日（木）

2. 日程（予定：時間等は変更の可能性があります）

◇9 月 16 日（火） 13:00～20:00
9:00～12:00 評議員・編集委員会

13:00～16:00 一般講演

16:00～17:00 総会

18:00～20:00 懇親会

◇9 月 17 日（水） 9:00～17:00

9:00～12:00 一般講演（ポスターセッション含む）

13:30～17:00 一般講演・大会企画

◇9 月 18 日（木） 9:00～12:00

9:00～12:00 一般講演

確定した大会プログラムは、本年 8 月に発行予定の本会ニュース（No. 63）に掲載するほか、本学会ホームページ（<http://senchug.ac.affrc.go.jp/>）およびメーリングリスト（NEMANETJ）でもお知らせします。

3. 会場

1) 大会

文部科学省研究交流センター

住所：〒305-0032 茨城県つくば市竹園 2-20-5

（つくばエクスプレスつくば駅・つくばセ

ンターから南へ徒歩 20 分)
TEL : 029-851-1331, FAX : 029-856-0464
URL : http://www.mext.go.jp/a_menu/

[kokusai/kouryucenter/](http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/kouryucenter/)

2) 懇親会

つくば国際会議場内エスポワール

TEL : 029-850-3266

URL : http://www.epochal.or.jp/floor_guide/food/index.html

4. 大会事務局

大会についてのご質問・ご要望がありましたら、下記大会事務局あてお問い合わせください。

日本線虫学会第 22 回大会事務局

(独) 農業環境技術研究所生物生態機能研究領域 荒城雅昭 (事務局長)

(連絡先)

〒305-8666 茨城県つくば市観音台 3-1-3

TEL : 029-838-8269, FAX : 029-838-8819

E-mail : arachis*affrc.go.jp

5. 参加費・参加申し込み

大会・懇親会に参加される方は、2014 年 7 月 22 日 (火) までに、郵便振替にて大会参加費・懇親会費を下記口座へご送金ください。1 枚の振替用紙による複数参加者の大会参加費・懇親会費の送金は避け、なるべく一人 1 枚の振替用紙をご使用になるようお願いいたします。学生参加費 (大会参加費・懇親会費) の適用には、振替用紙の通信欄に指導教官のサインがあることを要件とします。7 月 23 日以降も大会参加申し込みは受け付けますが学生参加費の取り扱いはなくなります。

大会参加費 一般 3,000 円

学生 1,500 円

(7 月 23 日以降一律 3,000 円)

懇親会費 一般 6,000 円

学生 3,000 円

(7 月 23 日以降一律 7,000 円)

口座名 : 日本線虫学会第 22 回大会

口座番号 : 00130-1-695635

6. 講演申し込み

日本線虫学会第 22 回大会での講演を希望される方は、振替用紙の通信欄に講演をポスター発表・口頭発表のどちらで行いたいかを記入し、2014 年 7 月 22 日 (火) までに参加申込 (大会参加費の送金) をされた上で、同日中に講演要旨を大会事務局講演予稿集編集担当 (上記大会事務局とは異なりますのでご注意願います) へお送りください。講演できるのは 1 人 1 題 (共同発表者は別) で、講演を行う者は日本線虫学会会員である必要がありますのでご注意ください。講演要旨は、紙媒体 (印字原稿郵送) と電子メール添付ファイルで受け付けますが、電子メールによる送信を歓迎します。印字原稿郵送の場合は、コピー 1 部を添えてください。

申し込み演題数によって、口頭発表をポスターへあるいはポスター発表を口頭発表への変更をお願いする場合があります。

講演要旨送付先 :

〒305-8687 茨城県つくば市松の里 1

森林総合研究所森林病理研究室 秋庭満輝

TEL : 029-829-8246

E-mail : akiban*ffpri.affrc.go.jp

電子メールで受信した講演要旨については、受信後 1 週間以内に、受付確認メールを事務局から送信します。1 週間を過ぎても確認メールが届かない場合は、大会事務局講演予稿集編集担当までお知らせください。

7. 講演要旨の作成

講演要旨は用紙サイズ B5 判横置きで、上下左右の余白を 2.5 cm として作成して下さい。1 行は全角 45 字、本文 13 行、全体 16 行（タイトル行 3 行のとき）か 17 行（同 4 行以上）以内として下さい。1 行目に演者名を記し（発表者の前に○印、複数の場合は・で区切る）、続けて括弧（ ）内に所属の略称（所属が異なる場合は、上付数字を付けて区別する）、1 字空けて演題、1 字空けて上記事項の英文表記（氏名は Morisato, T. のように、所属は Kannon Univ. のように省略して記す）を記載して下さい。その後 1 文字空けて、責任著者のメールアドレスを付記してください。その際、迷惑メールを避けるため、@の代わりに*を使用してください。日本語は明朝系フォント（MS 明朝など）、英文表記は Century または Times New Roman などのフォント（12 ポイントを推奨）を使用し、タイトル行は太字にしてください。本文は行を改めて次の行から始めて下さい。本文中の英数記号は半角を使用して下さい。

電子メールの添付ファイルで提出される場合、ソフトウェアは「MS ワード」または「一太郎」を使用して下さい。本ニュース巻末に見本をお示ししましたので参考にしてください。

講演予稿集は、郵送または送信された講演要旨をダイレクトプリントして作成します。郵送の場合は、折り目や汚れがないようにご注意ください。

講演予稿集は大会当日に会場で配布します。このほかに、講演要旨（修正可能）は日本線虫学会誌第 44 巻第 2 号に掲載されます。

8. 講演発表

口頭発表の講演時間は、討論時間を含めて 1 題 15 分を予定しています。口頭発表では、PC プロジェクターのみ使用できます。PC プロジェクターの利用環境は Windows 7、対応ソフトは Power Point 2010 を予定しています。これ以外の環境で講演ファイルを作成されている場合は、より慎重な動作確認をお願いします。講演受け付け記録メディアは、USB メモリーによるウイルス感染が多発していることから、CD-R のみとします。

ポスター発表の場合は、下記のサイズに収まるポスターを作製して下さい。サイズ：1180×1740 mm（ちなみに A0 サイズは、841×1189 mm です）。なお、ポスターを貼り付けるピンなどは大会事務局で用意します。

9. 交通（料金は切符の料金）

1) つくば駅・つくばセンターまで

①つくばエクスプレス（TX）

・秋葉原駅から「つくば駅」行（快速・区間快速）が 1 時間におよそ 4 本運行しています。終点「つくば駅」下車（1,190 円）。

②高速バス

・東京駅八重洲南口から「つくばセンター・筑波大学」行が 30 分間隔（朝夕 20 分間隔）で運行しています。「つくばセンター」下車（1,180 円）。

・羽田空港から「つくばセンター」行がおおよそ 1 時間 30 分～2 時間 30 分間隔で運行しています。終点「つくばセンター」下車（1,850 円）。

③JR 常磐線

・ひたち野うしく駅：東口から「つくばセンター・筑波大学病院」行バスが約 20～30 分間隔で運行しています。「つくばセ

ンター」下車（520 円）。

・荒川沖駅：西口から「つくばセンター」行バスが 1 時間に 2 本程度出ています（450 円）。

・土浦駅：西口から「つくばセンター・筑波大学中央」行バスがおおよそ 20 分間隔で出ています。「つくばセンター」下車

（530 円）。

つくば周辺バス時刻などは下記 URL などを参考にして下さい。「つくばセンター」から会場最寄りの「つくば国際会議場」を通るバスの便もあります。

<http://www.kantetsu.co.jp/bus/rosen/timetable/tsukuba.html>



<http://www.bus-ibaraki.jp/index.html>

2) つくば駅・つくばセンターから会場まで

大会会場は、つくば駅・つくばセンター南方、「歩行者専用道路」を通過して約1 km のところにあります。「つくばセンター」から徒歩(20分)もしくはタクシーを利用して下さい。つくば市内には類似の名称の施設がいくつかありますのでご注意下さい。

ひたち野うしく駅からバス利用で会場へお急ぎの場合は、「東新井南」で下車し、通り過ぎた大通りを左に曲がって東に向かってください。高速バス利用あるいは荒川沖駅からバス利用で会場へお急ぎの場合は、「千現1丁目」で下車し進行方向の大通りを左に曲がって西に向かってください。

3) 自動車

・案内図を参照の上お越しく下さい。最寄りの高速道路インターチェンジは常磐自動車道桜土浦インターです。会場には無料の駐車場があつて十分利用できます。ただし17:15以降の出入りはできませんのでご注意願います。

10. 宿泊

大会事務局は、宿泊施設の斡旋を行いません。インターネット・電話等で、各自手配をお願いします。

日韓合同線虫学シンポジウムについて

岩堀英晶(九州沖縄農研)

このたび日本線虫学会の主催で、第2回日韓合同線虫学シンポジウム—Nematode problems in East Asian Monsoon region—を開催することになりました。第1回は2012年10月に韓国の済州島で開催され、日韓研究者の交流を深める非常に有意義な会議となりました。その際に交流会を2・3年ごとに行つてはどうかという意見があり、本年度日本での開催に至りました。

日程は、日本線虫学会第22回大会に引き続いて行うこととし、会場についても同じ場所としました。

1. 開催日

2014年9月18日(木)～20日(土)

2. 日程

◇9月18日(木)

13:30～17:00 シンポジウム

18:00～20:00 懇親会

◇9月19日(金)

9:00～16:00 シンポジウムおよびポスター発表

◇9月20日(土)

オプションルツアー

3. 会場

文部科学省研究交流センター(つくば市)(アクセスについては大会案内を参照して下さい。)

詳細につきましてはまだ決まっておりませんが、シンポジウムでは下記のテーマで日韓の研究者が話題提供する予定です。

招待講演として Dr. McGawley 先生(ルイジアナ州立大)にご講演いただくほか、

中国研究者のゲスト講演も予定しています。

Symposium I: Nematode problems in East Asian Monsoon region

Symposium II: Recent knowledge and method on nematology

Symposium III: Nematological education and its dissemination

Symposium IV: Research institute introduction

ポスター発表につきましては、テーマを定めず広く募集したいと考えています。

今後詳細が決まり次第、ホームページおよびNEMANETJでお知らせします。

大会についてのご質問等がありましたら、下記宛にお問い合わせください。

(連絡先) 岩堀英晶 (九州沖縄農研)

TEL : 096-242-7734

E-mail : iwahori*affrc.go.jp

よろしく願いいたします。

[記 事]

第 10 回ロシア線虫学会国際シンポジウム参加記

小坂 肇 (森林総研九州)

ロシア線虫学会国際シンポジウムは2年に1回開催され、第10回シンポジウムは2013年7月1日から5日にかけてモスクワ近郊で開催されました。シンポジウムはその時々のロシア線虫学会長が主催します。今回の主催者はロシア線虫学会期待の若手ミーシャ (Mikhail V. Pridannikov) さんでした。主会場はモスクワの中心部からミンスク (西) に向かって 40 km ほどのゴリッチノ市にある合宿所のような施設で、敷地内で発表、宿泊、食事ができました。施設の名前はゴリッチノ・トレーニングセンターといい、シンポジウムの期間中にも多

数の合宿中の子どもたちと引率の大人が滞在していました。食事は各団体ごとにビューフェ形式のはずでしたが、エクスカージョンで帰りが遅くなった時は育ち盛りの子供たちに私たちの分もほぼ食べつくされていました。

今回の参加者は 40 人ほどでロシア以外から 15 カ国の参加があったと総会で報告されました。ロシア以外からの参加は、ベルギー5名、エジプトとアメリカから3名ずつ、チェコ2名、イギリス、イタリア、ブルガリア、トルコ、イラン、パキスタン、インド、日本から1名ずつだったと思います。参加者名簿が配られなかったのがこれ以上思いだすことができませんでしたが、講演要旨から推定すると他の参加はセルビア、ウクライナおよびウズベキスタンからだと思います。口頭発表は「線虫学の歴史」、「生態と多様性」、「形態と発育」、「分子系統」、「寄生線虫」および「農業線虫の管理」の6つのセッションで行われ、約 40 題の発表がありました。私は「寄生線虫」のセッションでスズメバチに寄生するスズメバチタマセンチュウについて喋りました。座長は京大の竹内さんが留学していたアメリカ・ルイジアナ州立大学のエド (Edward C. McGawley) 先生でした。丁度竹内さんが留学中ということもあり、エド先生には締めのある座長をしていただいただけでなく、その後も時々好意的に声をかけてもらいました。今回の口頭発表は英語からロシア語およびロシア語から英語への同時通訳で行われました。そのせいでしょうか全般に反応が鈍い感じを受けました。大抵のロシア人研究者は私より流暢な英語を喋るので、できれば英語で発表してもらいたかったです。私だけでなく非ロシア語圏からの参加者にも同時通訳は概ね不

評でした。

ポスター発表は 20 題ほどでした。その中でチェコの研究者が *Ips* 属キクイムシの寄生線虫 *Contortylenchus* sp. に関する発表をしていて、同業者がいたんだと感激しました。私の勤務地が北海道のときに、やはり *Ips* 属キクイムシの *Contortylenchus* を見ていたからです。



Ips 属キクイムシの寄生線虫を研究しているチェコの研究者と記念撮影

日本でもどこでも *Bursaphelenchus* を除いて森林に関係する線虫の発表はほとんど見ることができませんが、シンポジウムではヨーロッパアカマツ苗の線虫病に関する発表も予定されていました（発表自体は残念ながらキャンセル）。他にも水生昆虫の寄生線虫や線虫の純粋な形態観察などの発表があり、このシンポジウムの最大の特徴は、発表内容の多様性が高いことだと思います。一方で流行の研究をしているにもかかわらず牧歌的な発表も見られました。サリチル酸やジャスモン酸を接種したトマトにサツマイモネコブセンチュウを接種したぶっかけ試験的な発表には外国人（ロシア人でないということ）参加者から、この研究のオリジナリティは何なんだ、との質問が出ま

した。データがオリジナルだ、と回答していましたが、そういわれてもという感じでは、もちろん質問者は発表を非難したのではなく、先行研究をフォローしないまま研究を続けても成果にならないと懸念して質問したのだと思います。

海外のシンポジウムに参加することの楽しみの一つにエクスカーションとパーティーがあります。エクスカーションでは、ゴリッチノ市に隣接するボリシエ・ヴァジヨミ町にある植物病理学の研究所を訪問しました。ソ連時代は対外的に存在していないことになっている秘密研究所だったそうです。その名残でしょうか敷地は高い塀で囲まれ、入退場するには遠隔操作で門を開けてもらう必要があります。研究所の一部が嚴重なセキュリティで区切られていて内装や設備も新しく組織的にも別の研究所になっているようでした。ここにミーシャさんは勤めています。施設は概ね日本と変わりません。セキュリティの区画を出ると旧ソ連時代から変わっていないのではないかという感じの研究室でした。温室もほとんど廃墟になっていましたが、1棟だけ近代的な隔離温室があり、ここで外来の病原体を扱っているようでした。研究所全体を改築するのではなくある部分に集中して改修している印象を受けました。エクスカーションでは他に詩人プーシキンの資料館やロシア正教の教会なども訪れました。気になったのは移動に使うバスがロシア人と外国人に分けられていたことです。ロシア線虫学会は日本線虫学会以上に国際化を目指していると思っていたのですが、同時通訳といはい内向きになったのかと感じました。あるいは、今回に限ってのロシア内の何らかの事情があったのかもしれませんが。パーティーについては合宿形式だったので公的私的

にかかわらず毎日誰かと飲んでいました。その中でナショナルドリンクパーティーという企画があり、ロシア国内の様々な飲み物が提供されました。クバス（ライ麦の黒パンを発酵させたロシアの国民的飲み物らしい）にしても何種類もあり、奥の深さを感じました。このパーティーは、100 リットルの生ビールを買い取っているのだから飲み尽くすまで終われないのだ、ということになって深夜まで続きました。別の日に開かれた懇親会ではピーマンで作った冠を乗せた子豚の丸焼きが出てきました。これは決してふざけているのではなく、むしろよく我々に食われてくれたと敬意の証のようでした。



懇親会で出された子豚の丸焼き

今回のロシア旅行ではビザの取得に苦労しました。なぜかビザ（正式にはビザと引き換えの招待状）がなかなか発給されず、直前に出たビザの有効期間も滞在期間より短くて本当に困りました。それでも使っていたロシア旅行に強い代理店がなんとかしてくれ、出発前日に成田空港でビザを受け取ることが出来ました。旅行代理店から機械の故障で招待状の発給が全般的に遅れているという情報はもらっていて、実際、今回の参加者も出発ぎりぎりまでビザを受け取ったという人が何人もいました。しかし、

ビザの有効期間が短かったのは私だけでした（通常は 30 日間有効のビジネスビザがもらえるのに私のビザの有効期間は 10 日間だった）。今後、ロシアビザを取得するときには気をつけるほうがいいかもしれません。旅行代理店はロシア旅行専門代理店を使うべきでしょう。

シンポジウムが終わって会長が変わり今期の会長は来日経験のあるユーシン（Vladimir V. Yushin）さんになりました。次回開催地は暫定的にですが、モスクワから東に 800 km 離れたカザン（カザニ）にある昆虫研究所となりました。ただ、昆虫研究所はカザンの中心部からバスで 3、4 時間かかるそうです（はっきり聞き取れなかったが、開催地はチェボクサルと言った気がする）。外国人参加者から早速、そんなところに私たち行けるのか、との声が上がります。今回のシンポジウムでは自力で空港と会場を移動しましたから当然の発言といえます。ロシア人研究者は今度は現地でサポートするから大丈夫と言っていました。どうなることでしょうか。カザンでの開催を諦めた場合は、ユーシンさんの在住地であるウラジオストクでの開催ということでした。ロシア旅行はいろいろと大変なこともあるのですが、私のようにマイナーな素材を研究している者にとっては発表内容の多様性の高いロシア線虫学会の国際シンポジウムは魅力的ではあります。次回シンポジウムに参加するかどうか、今から悩んでいます。

第 9 回九州線虫懇談会を終えての雑感

吉賀豊司（佐賀大）

毎年、九州で桜が満開となる 4 月初めに行ってきた九州線虫懇談会は今年で 9 回目を迎えたが、今回は諸々の事情で開催が 4

月中旬となった。例年なら九州沖縄農研センター構内に入ると、メインストリートのピンクで染まっていた桜並木が迎えてくれるのだが、今年は桜の木の青々とした新緑で、とても新鮮な印象であった。

開催時期が少し遅くなって年度始めの慌ただしさが一段落したためか、今年の参加者数は 24 名と過去最高となり、また、内容もアカデミックな話題から防除までとても充実したものとなった。まずは、東海大学農学部の松田先生による、シバ属植物におけるシバネコブセンチュウの寄生についての発表を皮切りに、その後、熊本大学理学部の澤先生の研究室の 3 名の学生によって、サツマイモネコブセンチュウのエフェクタータンパク質、CLE 様遺伝子の機能解析、誘引物質等、についての発表が続いた。休憩を挟んだ後、九沖農研の岩堀さんによる「ネコブセンチュウはクキコブセンチュウに進化する?」、はるばる鳥取農林総研から参加された大澤さんによる「ナガイモにおけるネコブセンチュウ類の防除対策」とネコブセンチュウの話題が続いた後、最後に九沖農研の吉田さんによる、シヘンチュウの研究紹介で締めくくられた。懇親会が当初の予定よりも 1 時間近く遅れて始

まったことが示すようにとても活発な質問や意見があり、大変有意義な会となった。また、企業の方々や退職された元佐賀大学の石橋先生や近藤先生も含め、多くの方々が参加されたため、その後の懇親会も楽しいひとときとなった。

会が終わって率直に感じたことは、線虫に興味がある人が集まり、時間も気にせずざっくばらんに話すことのできる心地よさである。私の所属する佐賀大学農学部では、昆虫を扱う 3 研究室と合同で行う合同ゼミが毎週あり、また、九州昆虫セミナーが活発に行われていて昆虫の研究については話を聞く機会が多い。生態から生理、遺伝子まで、昆虫を使った様々な研究も非常に興味深く、研究を行う上で刺激になることや参考になる面もある。しかし、同じ「虫」がついていても、体サイズの違いなどから線虫と昆虫との間の研究アプローチの仕方や考え方の違いに戸惑うこともたびたびあり、常々、線虫と昆虫の分野間にある壁やもどかしさを感じていた。しかし、この九州懇談会ではそういったもどかしさを感じることなく、線虫を使った研究の内容について楽しむことができた。これからも、このような機会を増やしていきたい。



懇親会で、元線虫学会会長の近藤榮造氏の話に耳を傾けている皆さん

[編集後記]

◆第6回国際線虫学会に行ってきました。詳細はニュース8月号以降に掲載しようと思いますが、ホテルを探して街中を1人で歩いた際に物乞いに絡まれたことを除けば、ケープタウンで治安上の不安を感じることはなく、快適でした。物価も比較的安く、つついとおみやげを買いすぎてしまいました。学会後のサファリツアーにも参加しました。シートベルトもない4駆のオープンカーのシートにしがみつき、アップダウンの激しい山道を行き、川を越え、藪こぎをしました。ジェットコースターより迫力ありました。野生動物のドキュメンタリー番組で見た光景が本当に目の前に広がっていました。ライオン、ゾウ、サイなどに手が届くところまで接近しました。車にライフル銃を積んでいるとはいえ、最初はかなりビビりました。学会も含め私費参加のためかなりの出費でしたが、遠いアフリカの国で、それに見合う以上の、また、おそらく人生最初で最後の貴重な体験をしました。

(岡田浩明)

◆日本森林学会が、創立100周年を迎えました。その記念として、オリジナル絵はがきセット(10枚組)を作ることになり、デザインが募集されました。締め切り間際に、100周年委員を務めておられる先生から、「動物、植物、森林風景の美しい写真は集まっているが、森林学会100周年にふさわしい(私の感覚で)写真がほとんどない」との連絡があり、急遽マツノザイセンチュウの写真を応募してほしいと頼まれました。もともと応募する気などなかった(そもそも絵はがきを作ることさえ知らなかった)ので、線虫の鑑定業務のついでに撮った写真を1枚適当に選んで応募してみたら、何と当選しました。賞品は、絵はがきセット10組と自分の写真の絵はがき100枚です。もちろん(?)賞金はありません。線虫の絵はがきをこんなにもらって誰に出すのやら。この運は、科研費獲得のために取って置くべきでした。

(前原紀敏)

2014年5月26日

日本線虫学会

ニュース編集小委員会発行

編集責任者 岡田 浩明

(ニュース編集小委員会)

(独)農業環境技術研究所 生物生態
機能研究領域

〒305-8604

茨城県つくば市観音台3-1-3

TEL: 029-838-8307

FAX: 029-838-8199

E-mail: hokada*affrc. go. jp

日本線虫学会ニュース第62号

ニュース編集小委員会

岡田 浩明 (農環研)

前原 紀敏 (森林総研東北)

入会申し込み等学会に関するお問い合わせは、学会事務局：(独)農業・食品産業技術総合研究機構 九州沖縄農業研究センター

〒861-1192

熊本県合志市須屋 2421

TEL: 096-242-7734 FAX: 096-249-1002

E-mail: senchug*kpd.biglobe.ne.jp

URL: <http://senchug.ac.affrc.go.jp/>